

平成 23 年 5 月 10 日 7:20 大阪空港発

このレターニュースは下見報告と今後の支援について作成しました。支援の方法については瀬川のアです。内海さんとも相談していますが、各位それぞれご事情もあると思いますので、読んでいただいて、メールにてご意見くださいませ。できるだけ早く支援をしていきたいと思っています。時間がない中申し訳ありませんがよろしくお願ひします。

## 現地下見行動内容

5月10日8:35分に仙台空港につきました。建物は損傷していません。石巻までの道のりは、瓦礫の山の風景でした。石巻のデッキは使えない状態で、バスにて飛行機横まで迎えが来て到着口に案内されました。仙台空港に降りるときに移した写真を貼っておきます。

降りるとすぐ内海さんからTEL、「石巻渡波地区にいるのでそこまで来るように」という命令が入ったので、バスで仙台駅前まで移動。(電車は動いていません、空港からは仙台駅便のみバスが出ています。)空港周辺は流された車と瓦礫の山でした。仙台駅から石巻駅まで行く便(1

時間に1本)に乗車し向かいにつきました。建物は損傷していません。石巻までの道のりは、瓦礫の山の風景でした。石巻のデッキは使えない状態で、バスにて飛行機横まで迎えが来て到着口に案内されました。仙台空港に降りるときに移した写真を貼っておきます。周りは船が横倒し、流された車はそのまま放置状態。コンビニは移動車で販売し、線路は曲がり、その上に貨物車両が転がっていました。家は大丈夫なのかと思って到着すると、1階は水に浸かったという情報でしたが、きれいにフローリングがされておりもうサロンが始まっています。

た。そこでは唯一お風呂が使えるので、地域の方(家が何とか使える状態の人や避難所からお風呂に入りに来る人もいらっしゃいました。)お風呂に入った後いろんな話をして過ごしています。その仲間に入れてもらいながら、その地域の人たちと話をしました。地震の話はあまり出まらなかったが、明るく振舞っておられました。夕方になってその家主さんである吉田千代子さんの友人の方が来られ地震の時の話をされていました。身につまされる話でした。その後桃生の共同ネットワーク本部に帰りました。

## 空港から仙台駅・石巻・渡波へ



飛行機から空港



落ち着いた風景に見える仙台駅前



瓦礫の山



サロンになった吉田千代子さんの家

## 東北関東大震災共同ネットワーク石巻キャンプ



石巻桃生公民館



男性の寝るところ



前谷地駅すごいラッシュ



共同ネットワーク本部(仙台)



遺体捜索中の警察

石巻市桃生地区の公民館をお借りして共同ネットワークのキャンプがあります。夜そこに帰り、夕食(この日は北海道から施設の調理員さんが奉仕に来てくださっていた)おいしく食べれました。20:30から全体ミーティングに参加し(ほとんどが新しいボランティアでした)その後各派遣場所のグループに分かれてミーティングがされました。ここ石巻キャンプでは武田さんが本部長ですが、その下にCLCの事務局の

方、その下に長期のボランティア(1か月ぐらい)が派遣先のチーフになっています。渡波グループは、北海道の芦別慈恵苑の和田さんがチーフになっていました。それを内海さんがフォローしてくれています。本来的にはこのチーフももっと長期の方がいる必要に思いましたが、なかなか難しそうです。和田さんはよく内海さんに相談してまとめてくれています。しかし、この5月で帰られるそうです。

この渡波地域の支援は武田さんも力を入れておられるところです。震災で人の心をつなげる地域づくりへと支援ができそうなところ。ある意味滋賀の宅老所フォーラムでテーマにした地域の人のつながりの中で、生まれるサロンであり宅老所であり小規模多機能、そして地域での共生を培うものではないかと感じました。互いが支え合う思いを芽生えることができるのではと思いました。

## 2日目南相馬の限界区域まで

武田さんは大きく被災地に対する動きをされています。初日には会えませんでした。2日目に仙台に来るようにお電話があり、朝6:20の出発に合わせて前谷地駅までボランティアの方に送ってもらいました。仙石線は途中までしか動いていません、桃生からは気仙沼線の一部と石巻線を乗り継いで仙台の本部へ向かいました

そこで武田さんと会い現状の話を伺いました。その日は武田さんも初めて福島県の方に行かれるそうで、それに同行しました。東北道から仙台自動

車道の海岸近くを南下し亙理町までいき、そこから一般道路で各地域を見ながら南相馬市の放射線限界区域まで行きました。途中海岸沿いはひどい状況でそこらじゅうに船の残骸がありました。「ひどい」という状況をうまく言葉で表せないのが残念です。その後物資を持って避難所を4か所回りました。案内してくれたCLCの二瓶さんは看護師としてこの地域の救護所に医師団と共に来ていたそうです。

南相馬市では一人のすごいボランティアさんに会いました。その方は特養に勤めていたのですが震災直後から解雇されご自分の地域の在宅のお年寄りを訪問し、必要な物資を届けていたそうです。そんな中拠点としていた社協VCから勝手に物資を持っていくと言われたそうです。それで、自分で物資調達を共同ネットワークを通じて行い今でも在宅被災者へ物資を届けていらっしゃる。システムが個人をつぶす現実に出会いました。高村さんという方です。皆さん覚えておきましょう。



潮干狩りで有名な松川浦



特別限界区域(南相馬市)

## 現地では何を必要としているのか、又自分たちのできること

南相馬市で武田さんが知っている福島県庁の職員さんと会いました。とんでもない避難所や、個人を潰しているVCの事はご存知でした。何とかしますの言葉を聞けました。こんな職員さんがいること、こんなボランティアさんがいる事、それを希望にして南相馬市を後にしました。その後、仙台に帰ってから、夜 21 時に桃生のキャンプに帰りました。その時内海さんは支援場所別のミーティングで意見を言われていました。自分たちボランティアの立ち位置は地域の地域の人たちが主体であり、地域の人たちが立ち上がって地域の繋がりを築いていく支援をすることである。すなわち何でもやりすぎてしまう事はそれを阻害してしまう事であり、地域の人たちの心に寄り添った支援の有り様が問われるのです。これって介護の世界に似ていませんか？ 私たちはあくまで黒子であり、主体を奪ってはいけません。その事をボランティアに来ている皆さんに言っておられました。この事は私たちが今後支援する中で大切な心構えであり要素です。



ミーティング

## 所感と心を奮い立たせて・・・

3 日目は内海さんと共に渡波地区の支援へ朝から向かいました。これから地域を支えようとしている吉田千代子さんは元気です。私たちがつく 9 時半ごろには掃除も洗濯も終わっておられました。「さあ皆さんお願いします」ここから始まります。

朝から入浴される方、自宅を片付けられる方等ボランティアを交えて活動されています。「日常」この言葉が浮かびました。今を生きることの大切さ、それが日常なのです、大切な時間をいかに生きるかを学ばせて頂きました。

その後仙台空港に帰る前に、石巻市役所へ武田さん、内海さん、私と共にアポなしで伺いました。福祉課長は会議がありましたが、武田さんの食い下がりて話を聞いてくれました。行政も如何にこの現場で大切にしなければいけないかを考えていました。素晴らしいです。官民一体とは言いますが、誰もが同じ目標を決めたとき大きな渦となって福祉は動きだすんだと思いました。



石巻市役所(駅前スーパーの階上にあります)



サロンの運営者吉田千代子さんです。  
明るい笑顔になりました。後はご本人の意志次第？



サロンの楽しい風景です

## 桃生キャンプの様子



食堂



食べ物があります



トイレ



洗濯機あります



お風呂です

## 近畿の支援方法提(案)

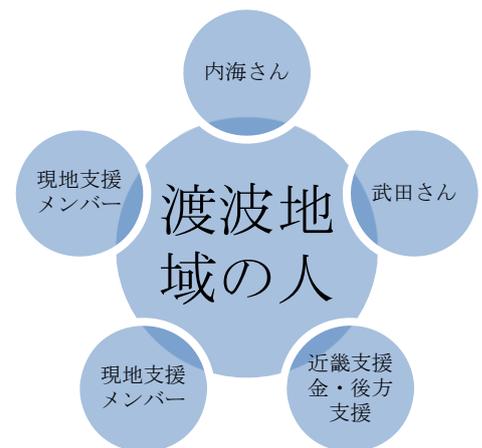
1. 定点支援として北海道のメンバーと共に、この渡波地域を支える。
2. サロンからスタート。まだ家に帰りたくても帰れない方々の家内清掃や瓦礫撤去を人手がなければ手伝い、サロンに来てもらって地域のつながりを育む。(人が集まれば心も和む)
3. サロンの手伝いなので日入り月～金奉仕土曜帰りの日程でどうか？
4. もう1箇所石巻地域にサロン作りを行う。(内海さん武田さん)

中心は地域の方々

内海さんはメンバー交代の引き継ぎ役

武田さんは統括としてもう1箇所作り

現地支援の実働隊と近畿管内に於ける  
資金及び物資支援



## 支援イメージ→

### 具体的支援方法

1. 支援場所の決定(内海さん・武田さん)
2. 支援メンバーの募集 具体的にいつ・誰がいけるかを希望調査して日程調整を行う。(瀬川・内海)メールにて調査票を配布・返信願う。
3. メンバーが決まれば派遣
4. 平行して活動資金集め

### 派遣メンバーの動き

1. 日曜日に近畿出発・石巻桃生キャンプ入り。オリエンテーション
2. 宿泊はこの桃生公民館で食事は食堂で。入浴もできます。布団有
3. 現場で泊まればそれも可
4. 朝 9:00 より車移動 30 分で渡波へ。利用者の送迎あり(車)
5. 月曜日からサロン奉仕と近隣片付け奉仕。金曜日まで繰り返し
6. 土曜日仙台移動帰宅
7. 必要物資があれば内海さんに連絡→内海さんから近畿後方支援へ

以上至急皆さんの意見を聞かせてください！